

長崎県における高校生向け金融経済教育の実践報告

～「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト」の取組みについて～

ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト推進協議会 事務局
長崎銀行協会会長行 十八親和銀行総合企画部

2025.06.30

■ 目次

01.はじめに……P2

発足に至った背景

02.組成のプロセスと連携体制の構築……P3

全体像

組成プロセス

03.取組みの全体像と進め方……P5

共通認識・授業にあたってのルール

授業・教材について ①

授業・教材について ②

04.学校との調整と運営体制の仕組み……P8

運営について①（金融団体への授業案内から講師決定、高校への通知スケジュール）

運営について②（講師担当者マニュアル）

05.成果と反響……P9

取組実績

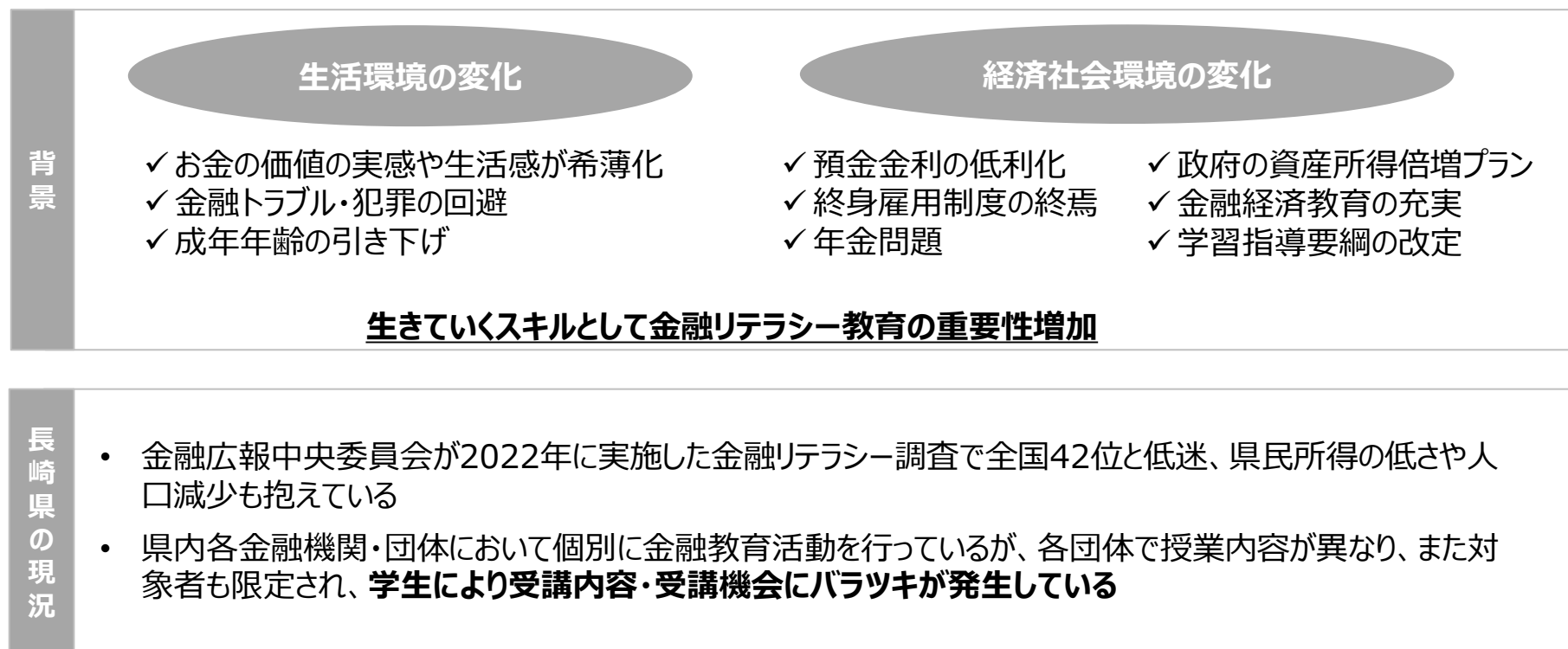
アンケート結果

06.継続と拡大を支えた工夫と連携のポイント……P11

運営の強みと課題

07.今後の展開とまとめ……P12

01.はじめに ～「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト推進協議会」の発足に至った背景～

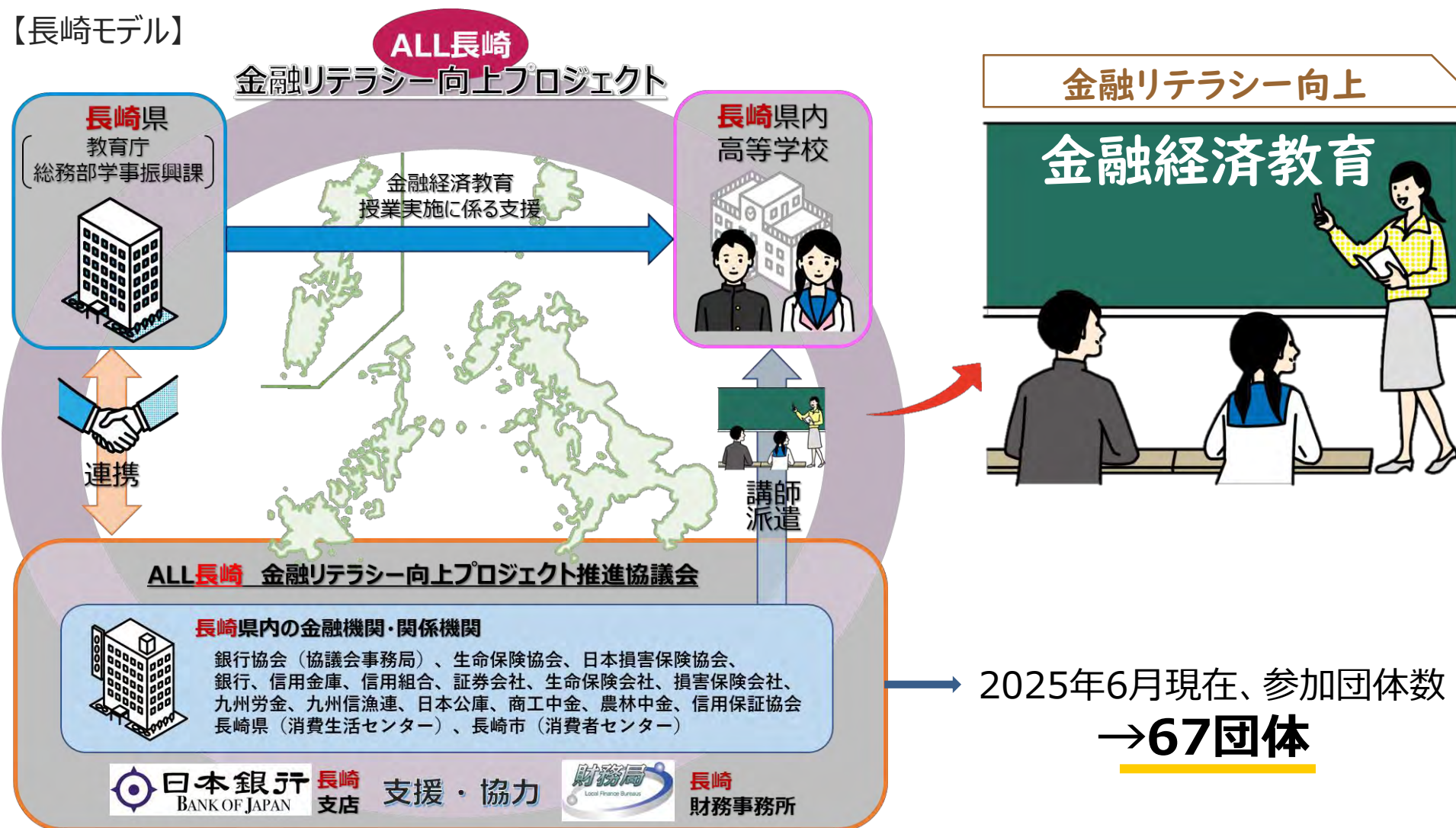


2023年7月「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト推進協議会」を組成し、
官学金一体となって長崎県独自の統一した金融経済教育推進体制「**長崎モデル**」を構築

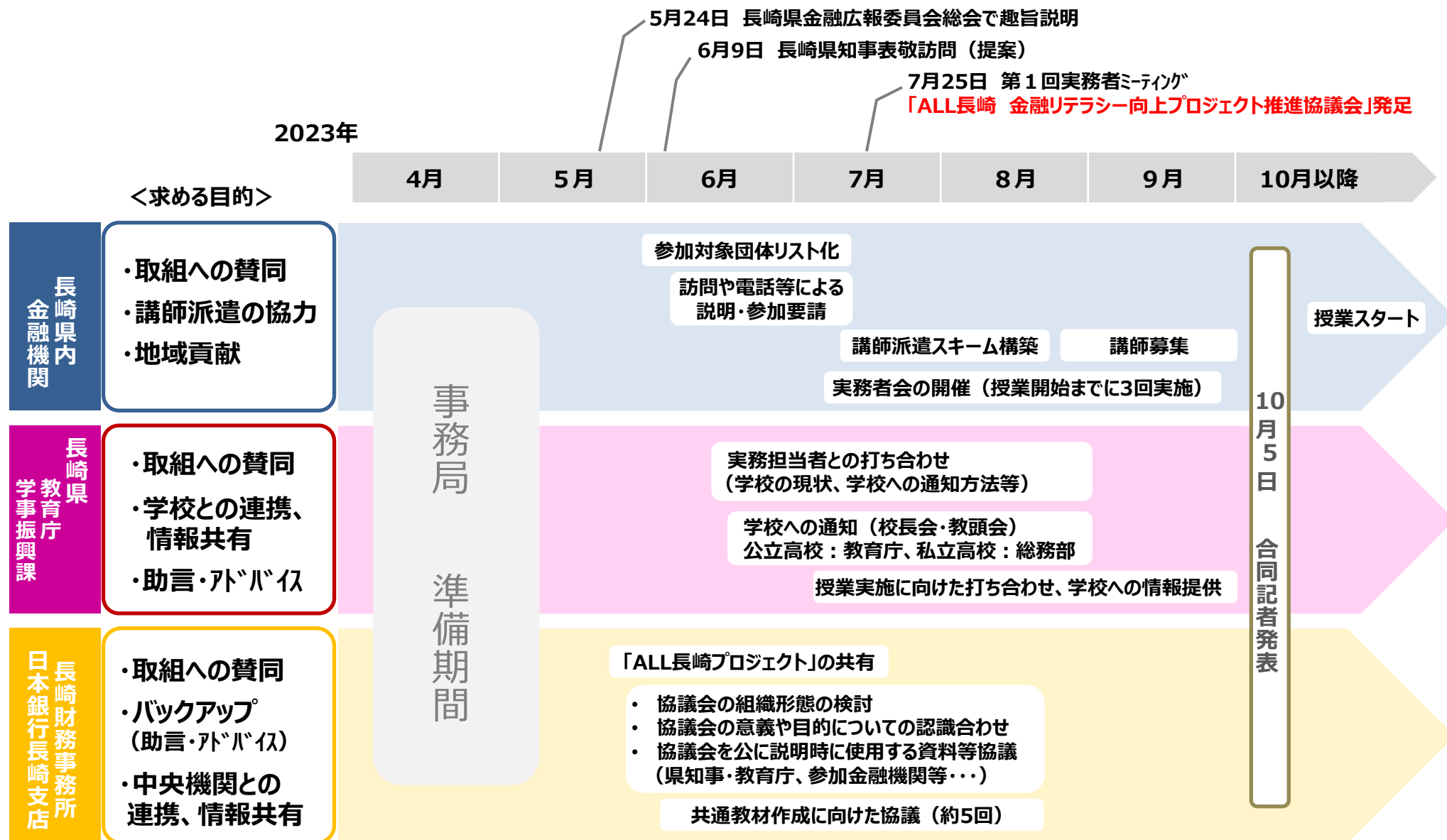
02. 組成のプロセスと連携体制の構築 ～「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト推進協議会」の全体像～

- ・「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト推進協議会」の体系図です。
- ・長崎財務事務所や日本銀行長崎支店にご支援ご協力いただき、長崎県と連携することでプロジェクトは成り立っています。

【長崎モデル】



02. 組成のプロセスと連携体制の構築 ～「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト推進協議会」の組成プロセス～



03.取組みの全体像と進め方 ～「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト推進協議会」共通認識・授業にあたってのルール～

- ・ 参加団体と目的や取組概要について組成当初から共有することで、志を一つに取り組むことができます。
- ・ 授業についてルールを徹底することで多くの団体様から安心して講師派遣をしていただき、持続することができます。

目的

現状の課題：①金融リテラシー調査全国42位 ②人口減少 ③県民所得全国42位

- 金融や経済に関する知識や判断力を持つことで、「県民一人一人が経済的に自立し、“より良い暮らし”ができること」を目指します。

取組概要

『長崎モデル』～すべての団体（ALL）で、すべての子供たち（ALL）へ～

- 長崎県内の全ての高校に対し、金融経済教育（出前授業）を実施（将来的には、小中学校大学への拡大も検討）します。
- 本取組では、各金融機関は営利目的を排し、共通の教材を使用します。派遣する講師は同じ内容で授業を実施します。

授業ルール

01

共通教材を使用→金融教育目標を偏りなく伝えます

次ページ

02

企業PR活動NG→地域貢献のため広宣物も配布しません！

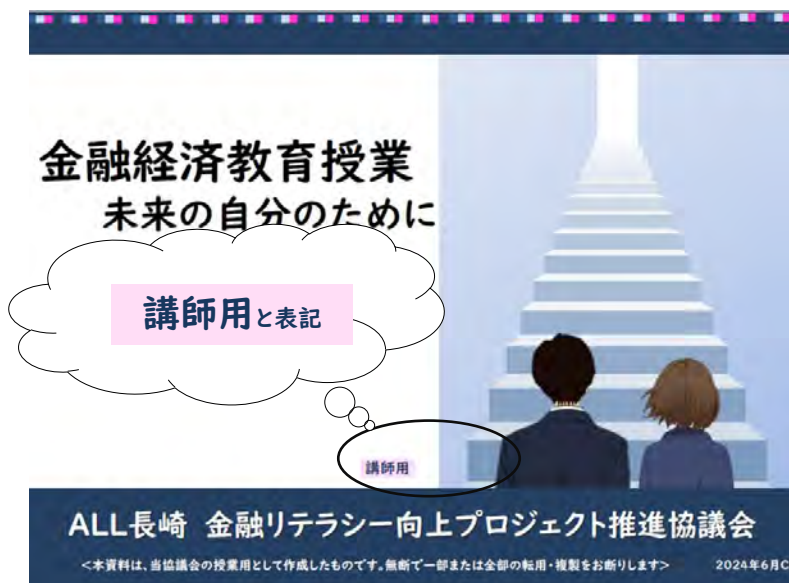
お願い

金融機関等の実務者（窓口担当者）がご異動などで交代される場合は、十分な引継ぎを実施のうえ、事務局宛てに新担当者の氏名・連絡先・メールアドレスなどをご連絡いただきますようお願いしております。

03.取組みの全体像と進め方 ～授業・教材について ①～

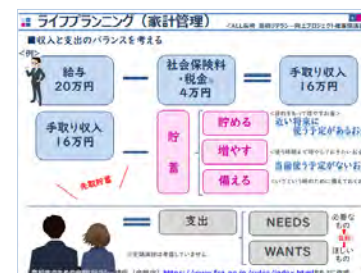
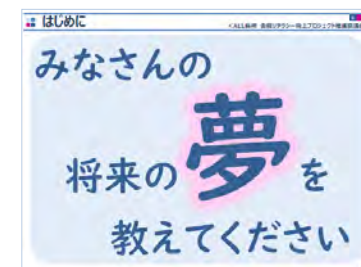
- 金融経済教育目標を偏りなく伝えるために、共通教材を使用しております。
- 同質の授業とするため、トークスクリプトを作成しております（そのページの意図することを共有、もしくは誰でも話せるように）。
- 参考となる授業をYouTubeで講師担当者に共有しております。
- 教材は適宜見直し、講師担当者の意見を反映しております。

◆ 講師用教材（表紙・目次）2024年6月改定 （スクリーンに投影して使用）



- ◆ 講師用にはクイズや説明用資料なども掲載しております。
- ◆ 生徒用教材は、高校の先生を通じてタブレットにお送りいただいています。

目次	
00	はじめに 3
01	ライフプランニング 14
	家計管理 19
	貯める/増やす 20
	借りる 43
	備える 48
	まとめ 54
02	金融と経済 55
03	金融トラブル 56
04	最後に 59



<授業について>

- 学校側には、「2年生」「クラスごと」「対面形式」での開催を推奨する旨の案内をしております。
- 特に授業単位について、学年ごとなど大人数では生徒に伝わりにくい（講師と生徒のコミュニケーションが取りづらい）ため、クラス単位での授業が望ましいと考えております。

03.取組みの全体像と進め方 ～授業・教材について ②～

授業の到達目標

教材

講師・先生の声（一部）

2023年度

金融リテラシーに興味を持ってもらうこと

◆金融リテラシーマップに則り、偏りなく伝える

- 教材のボリュームが多く、全体的に情報量が多い（講師）
- 学校によって理解力にバラツキがあるので、学校の実情に合わせて授業をしてほしい（先生）

2024年度

何か、ひとつでも心に残ること
金融機関ならではのこと
（学校の先生では伝えられないこと）

◆「基本（必須）＋選択（学校の要望）」を導入し一部省略を可
◆教材各ページの主旨が伝われば
トークスクリプト通りでなくても可
（講師が話し方をアレンジ）

- 高校が求める題目にフォーカスして組み立ててほしい（講師）
- 少し難しい内容にも感じたので、何か1つに絞っても、よかったかなと感じます（先生）

2025年度

学校側の要望を更に取り入れた授業の実施を目指す

◆ 基本・選択ページ関係なく、学校の要望に応じて、使用ページ（項目）を絞って授業する

- 学校の先生に、生徒の理解度（指導状況）や授業で特に伝えてほしい項目などをヒアリングするために、事前アンケートを実施、更に講師決定後打合せ

04.学校との調整と運営体制の仕組み ～運営について②（講師担当者マニュアル）～



05.成果と反響 ～取組実績～

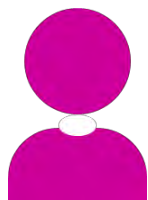
- 2024年度は、前年度の69校を上回る 県内**高校74校（受講生徒：10,465名）**で授業を実施しました。
- 特別支援学校2校に対しても授業を実施しました。
- 協議会に加入する66団体のうち、**33団体から講師（延べ150名）**を派遣していただき、前年度の29団体を上回る結果となりました。
- 2025年度は、6/30現在で**68校**から「出前授業を希望する」との回答をいただいております。

【2023年度】		(校・名)			
種別	対象校数	協議会で実施①	協議会以外で実施②	実施済①+②	割合 (%)
全日制 高等学校	公立	54校	1校	55校	100.0%
	55校				
	私立	10校	6校	16校	72.7%
	22校				
計	77校	64校	7校	71校	92.2%
定時制 高等学校	8校	5校	1校	6校	75.0%
合計	85校	69校 (76.7%)	8校	77校	85.6%
支援学校	14校	0校	0校	0校	—

【2024年度】		(校・名)			
種別	対象校数	協議会で実施①	協議会以外で実施②	実施済①+②	割合 (%)
全日制 高等学校	公立	46校	4校	50校	90.9%
	55校				
	私立	20校	1校	21校	95.5%
	22校				
計	77校	66校	5校	71校	92.2%
定時制 高等学校	8校	6校	0校	6校	75.0%
合計	85校	72校 (80.0%)	5校	77校	85.6%
支援学校	14校	2校	0校	2校	—



05.成果と反響 ～受講した生徒、先生、講師担当者（金融団）のアンケート結果（一部抜粋、原文）～



生徒の声

最初は金融って難しいと思っていたけど、楽しく学ぶことができました。家に帰ってから親に今日の講話について話したり投資ってそうすればいいの？運用って？貯金は安心だけど時にはマイナスになる株を買うべき？などいろんなことを調べたし、ミニ家族会議みたいな形で今日学んだことを共有することができました。この土日でもっと調べてみようと思ったし、どんなリスクやトラブルがあるのかなど学びたいと思います。

あまりお金のことについて興味がなかったけど興味がわいた。また、奨学金のことについても知ることができたから、今後の進路選択の際に生かしていきたいです。

学校では教えてくれない金融の授業をしてくださりありがとうございました。



先生の声

普段の生活ではどうしても進路実現とお金を絡めて話をする場面が多いが、一般社会で知っておくべき必要なことをお話しいただき、生徒たちにとっては深い学びの場となりました。私も改めてお金について学ばせていただく良い時間となりました。本当にありがとうございました。

高校生のうちから「金融リテラシー」について専門の方から話を聞いたことは、とても良い機会になったと思う。

大変興味深いお話をありがとうございました。将来のための先取り貯蓄は非常に大切なことだと改めて思いました。スライド資料も見やすくわかりやすかったです。ありがとうございました。

金利など具体的な例があり印象に残りました。



講師の声

熱心に聞いてくれる生徒も多く、金融機関が金融経済教育を行う意義を再確認しました。講師側にとっても良い経験となりました。

生徒さんだけでなく、先生方も真剣に聞いてくださり、たくさんの質問が飛び交う賑やかな授業となりました。時間としてもちょうど良く、時間内で端的に要点をお伝えすることができたかなと思います。

後半、専門的な知識は高校生には難しいと感じた。グループワークなどを取り入れてもいいと思った。

限られた50分の授業で学生の皆様が分かりやすいように、学校側と打ち合わせをして中身をブラッシュアップして案内をしました。基礎に力を入れてお話を致しました。

06・継続と拡大を支えた工夫と連携のポイント ～運営の強みと課題～

「ALL長崎 金融リテラシー向上プロジェクト」（長崎モデル）の強み

- ✓ 長崎県（教育庁・学事振興課）・長崎財務事務所・日本銀行長崎支店・長崎銀行協会の長崎県の「子どもたちに金融経済教育を届けたい」との思いが強く、組織内外の調整がスムーズであったこと
- ✓ 長崎県教育庁・長崎財務事務所・日本銀行長崎支店のご担当者方の強力なサポートにより「官・学・金」の取り組みが実現したこと
- ✓ ALL長崎参加団体、学校関係者等の皆様が、本取組みの趣旨に賛同し、同じ熱量で積極的に参加をいただけていること（組成・運営への協力）
- ✓ “営利目的を排し、地域貢献を目的とする”ことを関係者間で共通認識としたこと
- ✓ 共通教材（トークスクリプト）を使用していること

運営にあたって課題

- ✓ 事務局⇔参加団体や学校関係者との連絡手段（外部通信手段・セキュリティ・容量などの違い）
- ✓ 参加団体の実務者（責任者）の異動による引継ぎ不足
- ✓ 今後の新たな展開を検討するにあたってのリソースの問題

07.今後の展開とまとめ



● 対象の拡大

高校生だけでなく、小学生や中学生、大学生への展開も視野に
(今年度、実施予定)



● 発展的な学びへの展開

体験型のワークショップ、地元企業を知る
キャリア教育



● 参加校のさらなる拡大

未実施高校への普及、教育庁・学事
振興課との連携による広報活動



● 教員との協働体制の強化

学校の現場を知り教員とともに作る
金融経済教育



● 講師団のモチベーション維持・強化

参加金融機関の成果共有の場、
報告会・交流会の実施



● J-FLECとの協業強化

長崎モデルの情報発信、金融経済教育
出前授業の共同実施

- 官・学・金が継続的に連携するこの取組は、すでに長崎県全体に定着しつつあります。
- 今後も、この『長崎モデル』をさらに磨き、他地域への波及と全国的な金融経済教育の進展に貢献していきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました

おきなわフィナンシャルグループにおける 「金融経済教育」の取組み

(金融経済教育推進会議)

2025年6月30日 (月)

おきなわフィナンシャルグループ

総合企画部 サステナビリティ推進室

1. 金融経済教育の取組み（おきなわフィナンシャルグループ）

➤ 2023年11月、「金融経済教育シンポジウム」を開催。

（1）開催概要

- 開催テーマ：沖縄県の「安定的資産形成」浸透に向けた
金融経済教育 ～展望と課題～
- 開催日：2023年11月25日（土）@国立劇場おきなわ

（2）パネリストからの主な提言

- 産官学金が連携して取組むことが必要。
- J-FLECの始動、連携体制の構築を図る。
- 教員への研修/勉強会の実施。

（3）参加者の声

- 沖縄県の金融リテラシーが全国比で低い事を初めて知った。
- 「子どもの貧困・大人の貧困」の解決を考えたい。
- 各組織が危機感持っている。今後、産官学金が協力する
未来が見えた、期待したい。



2. 金融経済教育の取組み（おきなわフィナンシャルグループ）

➤ 2024年4月、OFG第2次中期経営計画を策定。

OFG第2次中期経営計画 「成長の共創 ～おきなわの成長とともに創る～」

【目指す姿～重要課題（マテリアリティ）～】

地域社会との共創

- 地域社会・地域コミュニティとの連携
- **子どもの貧困問題の解消**



【戦略Ⅰ．地域社会の価値向上】

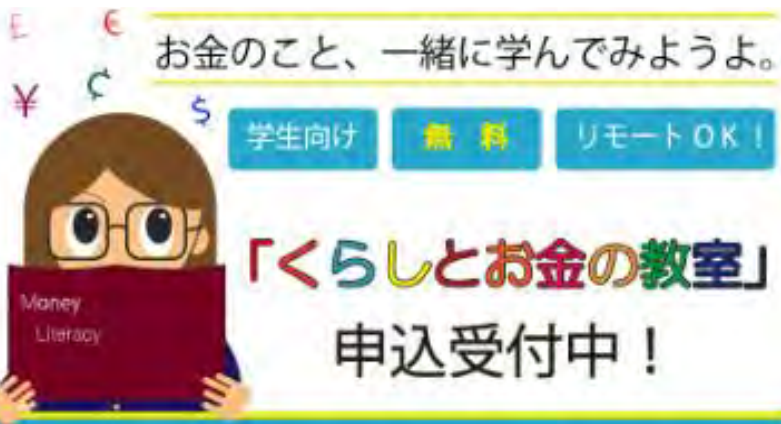
- リーディング産業振興等への貢献
- 地域事業者の資本基盤の強化と支援
- 地域社会、地域コミュニティとの連携
- **県民所得の向上、資産形成支援**
- 気候変動、地球温暖化への対策



● 県民所得の向上、資産形成支援

**金融リテラシー向上に向けた学校教育等への支援：
出前授業等の実施（グループ全体）**

金融ジェロントロジー(高齢社会における経済活動の課題解決)に向けた取組み(沖縄銀行、おきぎん証券)



3. 金融経済教育の取組み（おきなわフィナンシャルグループ）

➤ 出前授業「くらしとお金の教室」を実施。

- (1) 2023年12月、「くらしとお金の教室」の申込受付（HP）を開始。
- (2) 2024年3月、「くらしとお金の教室」のCMを製作。 ※CMをご覧ください。
- (3) 2024年9月、興南学園/興南高校にて「くらしとお金の教室（投資教育）」を実施。
- (4) 2024年10月、SMBCコンシューマーファイナンス を講師に「支店長向け講師養成研修」を開催。
- (5) 2024年12月、J-FLECと連携（講師派遣）した授業を実施。（2024年度_実施6校 ）



【2024年度実績】（2024年4月～2025年3月）

➤ 沖縄県内高校42校（142回）、中学校・専門学校・その他 22校（26回）

計 64校（168回/延べ 8,808名）へ授業を実施。

4. 金融経済教育の取組み（おきなわフィナンシャルグループ）

➤ 2025年2月、「第2回 金融経済教育シンポジウム」を開催。

(1) 開催概要

- 開催テーマ：沖縄県の安定的資産形成と、未来を担う世代への金融経済教育の充実に向けて ～取組み状況と課題～
- 開催日：2025年2月2日（土）@国立劇場おきなわ

(2) パネリストからの主な提言

- 貧困の世代間連鎖を防ぐためには**社会全体で金融経済教育に取り組む必要**がある。
- **課題は教員のスキルアップ**。研修制度の拡充など行政の関与、支援が必要。

(3) 参加者の声

- 沖縄県の現状や各団体の具体的な取組み状況を知る事ができ、大変参考になった。
- 親世代の金銭感覚のズレが子供にも影響があると改めて感じた。**大人も金融教育の知識を深める必要**がある。

※詳しくは琉球朝日放送 TV番組「17のたね」をご覧ください。

5. 金融経済教育の取組み（おきなわフィナンシャルグループ）

➤ 「金融経済教育シンポジウム」を契機とした連携

(1) 背景

- シンポジウムに参加した「沖縄県私学教育振興会」が
OFGの金融経済教育の取組みに強い関心を持ち連携打診。

(2) 教員向け研修会（金融リテラシー向上）を開催。

- テーマ：「未来を担う世代における金融リテラシーの大切さ」
- 開催日：2025年5月31日（土）12：30～16：30
- 主なプログラム
 - ① 基調講演：J-FLEC 理事 大友 佳子 氏
 - ②、③ 講演：野村証券那覇支店、沖縄銀行
 - ④ フリートーク：豊見城市長、J-FLEC大友理事、
大和証券那覇支店長、他4名

※OFGにて私学教育振興会へ「J-FLEC」、「大和証券」を
マッチングし、研修会を開催。



6. 金融経済教育の課題

- 現場（支店長）からの「意見」、見えてきた「課題」 ～出前授業の実施を通じて～

【 出前授業を実施した支店長からの「意見」 】

- 生徒から「お金のことを考える機会となり、興味を持った」等、前向きな意見が多い。
- 教員、保護者（PTA）の意識は「金融教育は必要である」との認識。
- 全クラス集合開催より、クラス別の開催の方が授業への興味が高く、理解が図れる。
- 「計画的な実施」、「授業の質の向上」に向けて、関係機関との連携が必要。

一方、授業に実施に向けた「課題」も多い

【 課題 】

- 授業カリキュラムが既に決まっている、時間が取れない、授業に組み込めない。
- 授業の提案を行っても、なかなか決まらない。（キーマンは誰？）
- クラス別開催において、「講師」の確保が難しい。（クラス毎に講師対応が必要）
- 金融教育の必要性は認識する一方、「自分事」として捉えられていない。

7. 「産官学金」が連携した取組みの展望

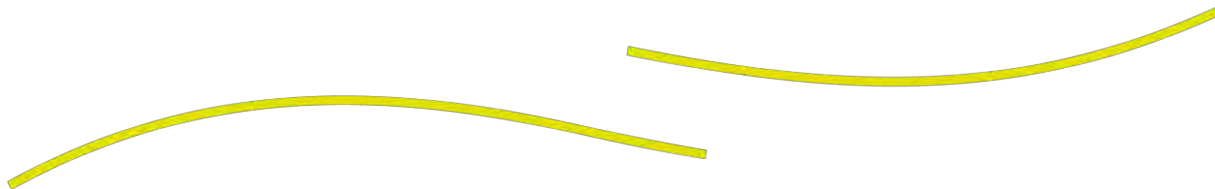
- 沖縄県内の金融リテラシー向上は全てのステークホルダーの目標。
- 「産官学金」が連携し、効果的な金融経済教育を実践できる取組みが必要。
- これまでの取組みやネットワークを活かし、OFGを起点とした連携体制の構築を進める。

「産官学金」が有機的な連携体制を構築



End

～ご清聴ありがとうございました。～

Two yellow curved lines, one on the left and one on the right, both curving upwards and then downwards, resembling a stylized smile or a decorative flourish.

お金を学ぶ文化を日本に



Cultivate a culture of financial
literacy in Japan.

FGAKU

株式会社 F 学

代表取締役 社長 **園田 裕樹**

野村證券出身
不動産系ファンド/ファーストブラザーズにて
東証への上場を経験
その後、F学を創業

サービス紹介

ファイナンス学院

■ 金融教育を専門家向けに提供

当学院は、**金融教育**を一般人ではなく、**資産管理に携わる専門家**へ展開する研修会社です。
知識の習得から伝達力の向上、教育コンテンツの開発まで幅広くサポートしています。

■ 絶対的な中立性

事業内容は**金融教育のみ**
金融商品の案内や販売は一切なし

■ 年間200回超の研修実績

毎年実施する**金融研修は200回以上**
参加者は年間**2万人超え**



F 学の理念

「**お金を学ぶ文化**」を日本に根付かせる

お金の知識を強化することで
人生の選択肢を拡大させ
もっと未来にワクワクする人生に！

F学キッズ

■ 小学生からはじめる金融の学校

F学キッズでは、**金融教育**を展開しています。
小学生を対象に、**通年学習**が可能な教材を開発し、
「**金融・経済・キャリア**」教育を提供しています。

■ 通年で学ぶカリキュラム

オリジナルのアニメ動画やワークを
活用する**体験型の授業**が特徴
小学生でも飽きずに学習可能

■ 子ども向け金融教育の実績

全国の公立小学校や学童にも提供
埼玉県 戸田市立 笹目小学校・
茨城県 龍ヶ崎市立 龍ヶ崎小学校 など



必修要素

1. キャリアの選択肢拡大

経済を学ぶことは様々な生き方を知ることに関わり、キャリアの選択肢拡大に貢献する。従って、金融経済を学ぶことで、より満足度の高い進路選択が可能となる。

2. 資産管理能力の強化

金融リテラシーの強化によって、将来キャッシュフローの逆算が可能となる。更に自身の環境や理想とするライフプランに合わせた金融商品の選定も可能となる。それにより資産の安定性と豊かさが向上する。

3. リスク管理能力の強化

金融商品に関してリスク・リターンの相場に関する知識や金融商品や金融機関を活用する際の一般的な手順を認識することは、詐欺などに遭遇した際に違和感を覚えることを助け、被害の防止に貢献する。

加点要素

4. 判断力の強化

行動を選択する際、感情的な判断ではなく、選択肢の価値を比較し、数値的な根拠を持って合理的に判断することが可能となる。

👉 金融経済教育の必要性に対し、**潜在的な認識**はあるものの**優先順位が低い**

優先順位が低い理由（推測）

①**金融リテラシーの向上による恩恵**について**理解が弱い**

②**金融経済教育**をより**負荷なく学べる環境整備に欠ける**

ー推測に繋がる事例ー

新NISAの効果に触れるメディア発信の増加やわかりやすい解説を提供するコンテンツの拡大を背景に想定以上のペースで新NISAの普及が進んでいる

③**金融経済**に関して**負の情報**に触れる**機会の方が多く、需要の拡大が阻害**されている

ー推測に繋がる事例ー

- ・報道に関して、**相場の上昇**よりも**相場の下落**を取り上げる機会の方が多い
- ・**金融経済教育の拡充**による**詐欺被害の減少**を報道する機会は少ないが、**投資**に関係する**詐欺被害の報道**は多い

④**金融リテラシー**が**不足**する状況に対して**危機感が低い**

ー推測に繋がる事例ー

日本におけるこれまでの生活環境が、

「充実した社会保障」＋「低金利×デフレ経済」だったことにより、

人生の資金不足に対して**危機感が弱く、楽観的な国民が多い**

金融経済教育への需要が高まるパターン

- ① 危機感(課題感)がある場合
- ② より具体的に成果を想像できる場合

上記の推測に繋がる材料

－ 危機感 －

1. 一般の大人向けに2種類の金融教育コンテンツを提供した際の申込み件数

コンテンツ①_資産形成全般の知識強化 コンテンツ②_相続関連の知識強化

→相続関連の方が約5倍の申込数という結果に

－ 危機感 －

2. 子ども向けの金融経済教育スクールに通う子の特徴

保護者が子どもの将来に不安を感じているケースが多い傾向がみられる

－ 成果の強調 －

3. 広告による集客は具体性があると、より効果に期待ができる

金融経済教育に関する広告は資産形成の意義を中心にまとめる傾向が強い

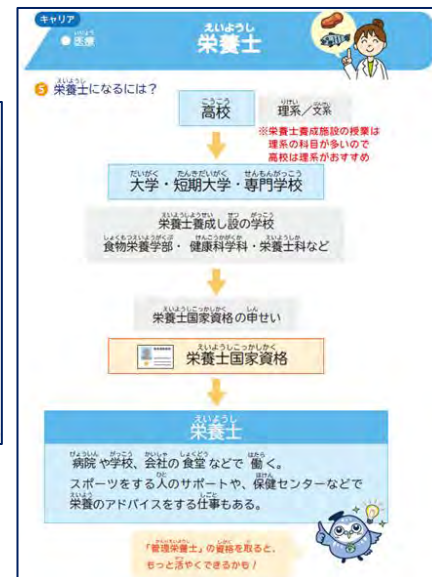
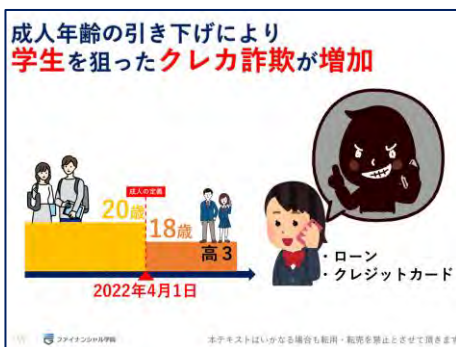
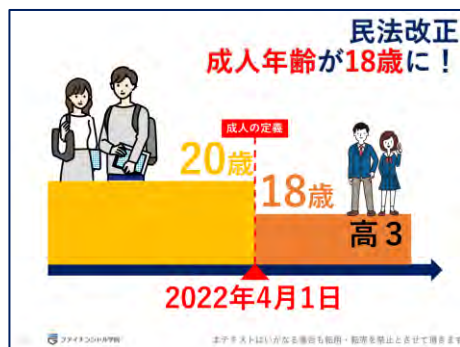
1. 金融経済教育を学ぶ機会だけでなく教える機会も増やす

目的 金融リテラシーに対する学習意欲を促進する

自身のために学ぶ立場の人間よりも、
第三者に教育するために学ぶ立場の方が学習に対する意欲が高まる

具体案

社会人が大学生に/大学生が高校生に/保護者が子供に金融経済を教える、
というような教育する側を経験する企画を創出する。
そのためにコンテンツを一部改良/開発する



2. 講師のプレゼンスキル/コミュニケーション力を強化する

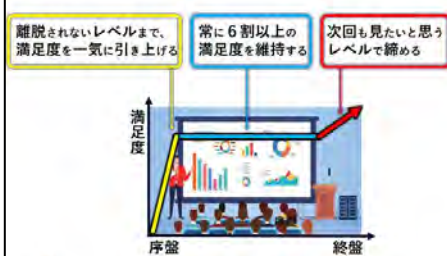
目的 金融経済教育に対する学習意欲を高め、
学びを継続しやすい環境づくり支援する

現在はSNSやAIの発達により、無料で情報を取得できる時代
これからの指導者に求められるものは、
学習に対するモチベーションの維持を支援する力

具体案

金融経済の知識に留まらず、講師のプレゼンスキルやコミュニケーション力、
を強化するコンテンツの開発や機会を提供する

参加者の集中力を維持するための構成



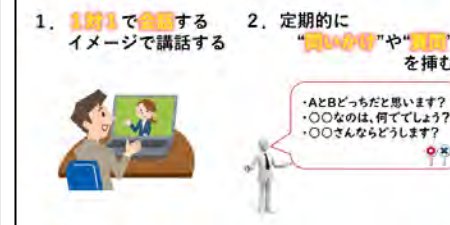
満足度維持にはブレイクが重要



話し方のコツ



話し方のコツ 継続的に聞き手にアプローチする



3. 金融リテラシーが受験の評価に絡むよう促す

目的 社会的なニーズに絡めて金融経済教育を普及させる

子ども向けの教育は
受験の合格率に直結する習い事の方が優先される傾向がみられる

具体案

金融リテラシーに関する内容がすでに受験に含まれている事実の周知を促す。
信用度の高い、子ども向け金融検定などを作成する。
金融リテラシーを持った子どもを評価する機会を設ける。



かね ほう ほう
お金をふやす方法

1 ^{じぶん}自分がはたらく

2 ^{かね}お金をはたらかせる



給料を上げるには? F学

給料の金額 = $\frac{\text{自分の価値}}{\text{時給}} \times \frac{\text{働く時間}}{\text{時間}}$

給与を増やすには?

自分の価値を上げる (illustrated with a person holding a coin) 長時間働く (illustrated with a person at a desk with a clock)

合格!! 100点 (illustrated with a person celebrating and a large green arrow pointing upwards)